

受験勉強(前編・夏編・後編)

注意すること

高校受験に受験テクニックなど必要ない

よく受験テクニックとか、ノウハウなどという言葉聞きます。高校受験ではそういったものは全く必要ありません。たとえば数学。ある問題で特殊なテクニックを使えば普通より短時間で解ける場合があります。そしてそういった方法を丸暗記していくことが数学の受験勉強だとする学習塾や参考書も少なくありません。ところがやり方を暗記することによって数学でもっとも必要な「柔軟な思考」をうばってしまうこととなります。こういったことは、どの教科でも多かれ少なかれ当てはまります。受験勉強をやっていて「少しでも点数を上げたい。」「少しでも速く解きたい。」という思いからノウハウやテクニックといったものに頼りたくなってしまいがちです。でも高校受験で高得点をえるためのもっとも良い方法はその教科の本質をできるだけ理解することです。

間違えた問題こそ大切

皆さんは問題練習をして間違ってしまった問題は どうしますか？

A.「答あわせをするだけ。」 B.「解説を納得するまでよく読む。」 C.「先生などに質問する。」

Aは論外ですね。間違えた問題こそが自分にあって一番大切な問題ですからそれをしっかりと理解しなければ問題練習をする意味がありません。Bのように解説を読んだり、参考書を見たりすることも大切です。自分ひとり考えてもわからないときはCのように質問することも必要ですね。重要なことは解き方、考え方をしっかりと理解しておくことです。そしてもう一つぜひやってほしいのが「間違い問題ノート」です。間違えた問題とその答をノートに写しておいて試験前や夏休みなどにもう一度解いてみて下さい。解き方、考え方が理解できていれば次にやったときには間違えないはずですよ。もう一度やったときにまた間違えてしまうような問題はさらにしっかりと復習して類題などを採って練習するなどの対策をしましょう。自分の弱点はなかなか気づかず克服も難しいものですが、「間違い問題ノート」を作ることで弱点を確実に減らしていくことができます。

前半(夏休みが終わるまで)にやらなければいけないこと

自分の得意なところを見つけてそれを克服する。

各教科

英語・・・文法をまとめる。教科書の例文を覚える。

数学・・・基本的な事柄をまとめる。その上で問題練習する。

理科・・・教科書のまとめ。基本問題練習。

国語・・・文法のまとめ。詩歌の表現技法、古典の言葉。

社会・・・教科書のまとめ。基本問題練習。

夏休み前までに得意なところを見つけ出す。

できるだけ細かく詳しく特定しましょう。

各教科上に書いてあるようなまとめと基本問題中心の勉強でまず自分の理解していないところを見つけ出します。そのときにできるだけ詳しく、どの単元のどの部分が理解できていないのか、どこまでは理解できるのかを特定します。そして理解できている部分の練習を徹底的にやります。

例)「1次関数がわからない。」場合

→まず教科書を読んで区切りごとに基本問題をやります。

どの部分から間違いが多くなるか見つけてください。

たとえば、1次関数の式を出すことはできるけれどダイヤグラムなど文章題になると間違いが多くなるなら

→文章題に入る前までの1次関数の問題を基本から少し難しい問題まで徹底的に練習します。

得意なところを勉強しなさいといわれることはよくあるでしょう。ところが分からないところはなかなか手をつけづらいものです。いきなり今までできなかった問題を解こうとしても一人で克服するのは並大抵のことではありません。まずは分かるところ、基礎をしっかりと固めることから始める。ここがポイントです。

夏休みには 得意なところを克服し、1・2年の総復習。

夏休みには少し時間が多く使えますから得意なところにじっくりと取り組んでそれを克服することが最大の目標です。上に書いた例で言うたダイヤグラムなどの文章題を克服するのが課題です。でもその直前までの1次関数がしっかりと理解できていればそれほど難しいことはありません。一番簡単な文章題からはじめて、少しずつレベルを上げていくように問題練習をやっていけばたいして解けるようになります。このとき大切なのは得意なところの直前、土台の部分をしっかり固めておくこと。つまづいたら、わかるところまでどってもう一度徹底的に練習することです。さらに1・2年の範囲の総復習としてレベルアップした問題練習をしていきます。得意分野であれば標準的な高校入試問題などをやっていきます。

受験勉強(夏休み)

受験勉強

苦手克服と1、2年の復習が夏休み最大の課題！ 夏休みを利用して受験基礎をしっかりと作っておけば、確実にレベルアップが望めます。

夏休みにやるべきことは1、2年の全範囲を復習して受験基礎を固めることです。そのためにノートまとめと確認のための問題練習が学習の中心と考えましょう。その中で自分の得意な分野を見つけて集中的に練習することで一つ一つ苦手克服していくことが大切です。夏休み中に苦手をすべて克服できなかったとしても、どの部分が苦手なのかを把握しておけば9月から時間をかけて対処することも可能です。

得意分野については受験レベルの問題にチャレンジし始めてもいい時期ですが、苦手分野はしっかりと基礎を固めることを目指しましょう。ただ問題練習ばかりやってもあまり力にはなりませんからノートまとめしてから問題練習をして間違えた問題は納得できるまで考えるということが大切です。

各教科・夏休みの勉強法 注意点

■ **英語** 文法事項のまとめをする最後のチャンスです。不定詞や比較などの決まりごとをしっかりと確かめながら1年から3年既習範囲まですべてまとめましょう。

■ **数学** 数学は学年ごとのまとめより、図形・関数・方程式といった分野ごとのまとめが大切です。自分自身で重点分野を決めてその分野ごとに徹底的に練習して、習得したら次の分野をやっつけるという方法でやっていくと中途半端にならずにすみます。

■ **理科** 理科は入試問題を見てもすべての分野からまんべんなく出題する高校が多く、問題も平易なものがほとんどです。夏休みににはまずすべての分野の基礎をむと通りまとめ、確認のために問題練習をしていきましょう。

■ **社会** 教科書をよく読んで内容をノートにまとめ、→問題をやる→間違えたところをおぼえる→問題をやる。この繰り返しで基礎をしっかりと固めましょう。特に教科書をよく読んで重要なところをまとめることは記述力をつける上で重要です。

■ **国語** 国語の文法はきちんと勉強すれば確実に点数を取れる分野です。この夏休みを利用して文法をはじめから復習しておくことをオススメします。 また国語でいにより大切なのが長文の読解です。1日に30分程度どんな文章でもかまわないので読んでください。そのときに同じ文章を5回以上繰り返し読むと読解力がついてきます。

受験勉強(後編)

後半は問題練習を中心に学習

前半～夏休みまでで、基礎力のついた分野、科目は問題練習を通じて応用、実践力をつけていきましょう。このときに注意することがいくつかあります。

(1) 問題のレベル

この時期にやる問題練習の目的は「応用力、実践力を養う」ことです。基礎を確かめるような確認問題は必要ありません。応用問題をガンガン解いていきましょう。ただし、自分のレベルを大きく超えた問題まで手を出す必要はありません。公立高校を目指すのであれば公立高校の入試レベル内での発展問題を選んで練習するようにします。

(2) 時間

テストで点数を取るためには時間配分も大切です。入試と同じ程度の分量の問題を入試と同じ時間内に終えるように自分で時間を区切って練習しましょう。ただし、時間内に解けなかった問題もそのままにせず後でもう一度じっくり考えて解けるようにしておかなければいけません。

得意分野

後半になっても克服できない得意分野は誰にでもあります。得意な教科、分野については応用問題をいくら解いても力にはなりません。教科書や参考書を読んで理解したことをノートにまとめて基礎問題を解く。という地道な方法でつぶしていきましょう。

各単元のポイント

■ **英語**(長文中心)

・・・後半は長文読解を中心にします。もし文法事項でやり残したところがあれば長文読解の練習と並行してノートまとめと文法の練習問題をやってください。長文読解はできれば毎日1題、すくなくとも2日に1題。1題につき5回～10回読みます。できるだけ読んでいるときに英文は和訳しないようにします。10回読むと決めた場合、最初の何回かで内容が理解できたら残りはできるだけ速く読むことを心がけて読む練習をします。

■ **国語**(長文中心)

・・・英語と同様に長文読解を中心に練習します。やはり5回～10回で回数を決めて内容が理解できたら残りの回数は速く読む練習にします。小説文などはできるだけ情景をあたみに描くように、説明文などは筆者の言いたいことを要約するつもりで読んでいきましょう。古文も同じように何度も読んで全体の意味を把握することが大切です。古文の問題をやっていく中でよく出てくる単語や言い回しはノートに書き出して意味をおぼえましょう。

■ **数学**(自分のレベルに合った問題練習)

・・・基礎のできている人はどんどん練習問題をやりましょう。また一度間違えた問題は解説を読んで納得したつもりでいてもまた同じ間違いを繰り返す場合が少なくありません。間違えた問題をノートにうつしておいてしばらくしてからもう一度やってみると効果的です。

■ **理科**(各分野基礎を充実)

・・・理科は分野がたくさんあります。電気が理解できているからといって化学変化を理解できていとはかぎりません。それぞれの分野で理解度をチェックしておくことが大切です。理科の試験は広範囲から基礎的な問題も多く出題されるので理解度の低いところは基礎をしっかりとやり直しましょう。理科の記述問題や応用問題は基礎がしっかりと理解できていれば確実に解くことができます。基礎のできている人は応用問題に挑戦していきましょう。

■ **社会**(基礎を固めて問題練習)

・・・基礎がしっかりとできていれば、細かいことをおぼえるのも楽になります。色々な問題を解いて新しい事柄をどんどん覚えていきましょう。また、記述問題なども基礎が理解できていればたいしての問題は解けます。